

中筋山手東古墳群【市指定史跡(2号墳)】

中筋山手丘陵の東南麓の天神川右岸に位置する6世紀後半に築かれた群集墳です。1～3号墳は住宅地の中に残されています。

市指定史跡の2号墳は、横穴式石室の中央部に石が張り出し、前後2室に分かれている特殊な複室系横穴式石室の円墳で、近畿地方では珍しい形態をしています。副葬品の出土状態から4人が葬られていたと考えられています。



(※1～3号墳はフェンス外から見学することができます。中への立ち入りはできません。) 2号墳の石室の様子(正面から)

中山荘園古墳【国指定史跡】

古墳時代の終わり頃、7世紀中頃に築かれたと考えられている墳丘が八角形の珍しい形の古墳です。内部は横穴式石室の構造で、床面には木棺の痕跡があり、単体葬であったと推定されています。

八角形の古墳は、全国的にみても極めて珍しく、従来は奈良県の明日香地域の天皇陵でみられるため、なぜ宝塚市域でこのような形をした古墳が造られたのかはわかっていませんが、古墳時代の終焉を考える上で重要な古墳とされています。



発掘調査時の中山荘園古墳



現在の中山荘園古墳

どうさかくんメモ

市内にはかつて200基以上の古墳があったといわれており、「宝の塚」の地名にふさわしい古墳地帯だったドウ。特に長尾山丘陵には多くの古墳があったけれど、昭和初期の宅地開発で多くが消滅してしまったドウ。開発で壊されることなく残された古墳の中には、巨大な粘土槨(木棺を粘土で覆った埋葬施設)が発見された長尾山古墳など全国的にも注目される古墳があるドウ。

